

令和2年度
事業報告書

社会福祉法人 やながせ福祉会
認知症対応型通所介護
大津みやび野デイサービスセンター

令和2年度 事業計画

<p>目 標</p>	<p>身体機能の維持と活動意欲の向上につながる支援を実行し、自宅生活の継続を図っていくことで、稼働率 80%を目指す。</p>
<p>理 由</p>	<p>加齢とともに身体機能の低下や認知症症状の進行が観られ、家族の介護負担が増している中、身体機能の維持と活動意欲の向上につながる支援を提案し、実行していくことで、住み慣れた自宅での生活の継続を図りたいため。</p> <p>また、家族から利用時の様子や支援内容に関する問い合わせもあることを踏まえ、利用者には利用時に意向を確認するとともに家族には送迎など自宅訪問時や電話連絡にて、意向を確認するなど連絡を密にしていくことで、希望に沿った支援を実行していきたいため。</p>
<p>具体的対応策</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自宅を訪問した時に住環境や家族の支援状況を確認し、把握した内容をもとに自宅での生活につながる支援を提案し、実行する。 2. 自宅での生活を意識し、楽しみや生きがいを感じられるようにお菓子作りに加えて、季節に応じた外出支援を企画し、実行する。 3. 心身機能の維持を図るため、認知症の症状にあわせた脳トレーニングをすすめ、PDCAサイクルをもとに検証し、より個々の能力に応じた内容をすすめる。 4. 家族を含め、担当介護支援専門員など関係者との信頼関係の醸成を図るため、支援内容や活動様子などの情報をブログやデイ便り、実績報告にて外部に発信していくとともに、家族には個別便りに加えて訪問時に iPad を活用し説明する。

令和2年度 事業報告

事業報告	<p>コロナ禍に伴う感染症予防対策からお菓子作りなどの取り組みは十分にできなかったところもあったが、レクリエーションや作品作り、個々の能力に応じた脳トレプリントやパズル等を提供することで充実した利用につながっている。</p> <p>また、外出支援についても少人数で分かれて対応したことで、四季を感じられ、個々の活動意欲の向上につながっている。</p> <p>感染症予防対策から自宅訪問が難しく、住環境は十分に把握していないものの、送迎時に玄関周辺の段差等を確認し、日常的に実施しているリハビリ体操などに動作訓練として取り入れていることで、現存機能の維持を図り、安定した利用に努めている。</p>
事業運営総括	<p>令和2年度の稼働率は、4月当初は63.8%と低迷していたが、iPadの活用に加え、デイサービス便りにて、利用時の様子や活動内容ができる限り家族や担当介護支援専門員に伝えたとともに利用者や家族の要望などに応じて、時間差の送迎や個別支援を行ったことで、平均稼働率は79.3%となり、令和元年度と比較すると4.5%上昇した。ただ、目標の80%には僅かに達していないため、感染症対策を十分に講じ、楽しみやいきがいにつながる活動を利用者や家族とともに考え、継続して行っていくことで、稼働率の上昇につなげていきたい。</p>

要介護度の状況 《平均要介護度 介護 2.24》

令和3年3月31日 現在

	人数	割合
要支援1	0	0%
要支援2	1	4%
要介護1	7	27%
要介護2	9	35%
要介護3	3	12%
要介護4	6	23%
要介護5	0	0%
合計	26	100%

(四捨五入による%の誤差あり)

月間利用実績 (人数)

令和2年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	7
要支援2	0	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	1	17
要介護1	6	6	7	6	5	6	5	6	5	6	6	7	71
要介護2	10	11	11	10	9	8	8	8	6	6	7	9	103
要介護3	7	6	6	7	7	6	4	3	4	4	4	3	61
要介護4	3	3	3	2	2	2	4	5	6	4	4	6	44
要介護5	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	8
合計	28	28	30	28	27	26	25	26	23	22	22	26	311

月間利用実績 (延べ人数)

《稼働率 79.3%》

令和2年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	2	0	3	3	2	1	4	1	0	0	0	0	16
要支援2	0	3	9	9	13	19	18	17	15	16	8	10	137
要介護1	33	43	49	46	44	46	41	41	41	45	56	79	564
要介護2	95	101	109	106	106	92	87	68	50	56	75	94	1,039
要介護3	45	44	63	64	56	64	55	25	35	32	47	22	552
要介護4	14	27	17	25	28	27	32	51	51	34	41	83	430
要介護5	10	13	21	18	17	17	14	16	0	0	0	0	126
合計	199	231	271	271	266	266	251	219	192	183	227	288	2,864

開所日数

令和2年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	26	26	26	27	26	26	27	22	21	23	24	27	301

曜日別延べ利用実績

令和2年度

	月	火	水	木	金	土	合計
人数	501	462	509	440	465	488	2,865
割合	17%	16%	18%	15%	16%	17%	100%

1週当り平均利用人員

令和2年度

	月	火	水	木	金	土	合計	1日平均
人数	10	9	9.7	8.8	9.4	9.9	56.8	9.5
割合	17%	16%	18%	15%	16%	17%	100%	—

回数別利用人員

令和3年3月31日現在

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	合計
人数	5	8	6	5	2	0	26
割合	48%	32%	10%	10%	0%	0%	100%

保険者の状況

令和3年3月31日現在

保険者	人数
姫路市	26
合計	26

年齢別構成状況

令和3年3月31日現在

	65歳以下	65歳以上 70歳未満	70歳以上 75歳未満	75歳以上 80歳未満	80歳以上 85歳未満	85歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男	0	1	1	2	4	3	2	13
女	0	0	1	4	3	3	2	13
全体	0	1	2	6	7	6	4	26

日常生活状況

令和3年3月31日現在

区 分		実数	割合
歩 行	自 力 歩 行	18	69.2%
	杖等の歩行補助器使用	6	23.1%
	車いす使用	2	7.7%
食 事	自 分 で 可 能	22	84.6%
	一 部 介 助	3	11.5%
	全 介 助	1	3.8%
入 浴	自 分 で 可 能	0	0.0%
	一 部 介 助	20	76.9%
	全 介 助	6	23.1%
着 替	自 分 で 可 能	4	15.4%
	一 部 介 助	20	76.9%
	全 介 助	2	7.7%

区 分			実数	割合
排 泄	トイ レ	自分で可能	13	50.0%
		介 助	13	50.0%
	内おむつ使用		0	0.0%
認 知 症 高 齢 者			26	100.0%

対 象 人 数	26
---------	----

(四捨五入による%の誤差あり)

行事報告

	行 事	趣味・生きがい活動	レクリエーション及び体操
4月	ドライブ：桜・芝桜観賞 作品作り	計算ドリル 漢字トレーニング 塗り絵	ボーリングゲーム バケツボール入れ
5月	園芸 作品作り	計算ドリル・塗り絵 各種パズル	風船バレーボール 音楽療法
6月	ドライブ：紫陽花観賞 作品作り	計算ドリル 漢字トレーニング 塗り絵	輪投げゲーム ボールコロコロインゲーム もぐらたたきゲーム
7月	七夕飾り作り 作品作り	書道（ペン）習字 塗り絵・計算ドリル	ブロック積み 回想カルタ ボーリングゲーム
8月	夏祭り 作品作り	計算ドリル・塗り絵 書道（ペン）習字	音楽療法 風船バレーボール 百人一首
9月	ドライブ外出 作品作り	書道（ペン）習字 カラオケ・塗り絵 計算ドリル	おじゃみ投げ ブロック積み ボーリングゲーム
10月	ドライブ：コスモス観賞 作品作り	漢字トレーニング 計算ドリル・塗り絵	絵合わせゲーム 輪投げ 風船バレーボール
11月	ドライブ：紅葉観賞 作品作り	計算ドリル・塗り絵 漢字トレーニング 書道（ペン）習字	バケツボール入れ ボール体操 絵合わせゲーム
12月	クリスマス会 作品作り	計算ドリル 漢字トレーニング 塗り絵	ボーリングゲーム おじゃみ投げ ブロック積み
1月	作品作り	計算ドリル 漢字トレーニング 書道・塗り絵	風船バレーボール 回想カルタ パターゴルフゲーム
2月	節分豆まき （鬼当てゲーム） 作品作り	計算ドリル 漢字トレーニング ペン習字・塗り絵	風船バレー 輪投げ ボール投げゲーム
3月	ドライブ外出：菜の花 作品作り	計算ドリル 漢字トレーニング ペン習字・塗り絵	ブロック積み おじゃみ投げ バケツボール入れ

	行 事	趣味・生きがい活動	レクリエーション及び体操
定期的	ドライブ外出 お誕生日会	書道・ちぎり絵	ビデオ体操・散歩・口腔体操 メドマー・マイクロサーミー ラジオ体操

職員間の内部研修の実施状況 (令和2年度)

研修名	研修内容	参加職種	参加人数	期間	講師(職・氏名)
接遇研修	言葉遣いについて	全職種	7名	4月27日	管理者
リスク管理研修	ヒヤリハット数と事故報告件数の対策の視点について	全職種	6名	6月20日	生活相談員
感染症研修	食中毒・手洗いについて	全職種	6名	6月20日	看護師
リスク管理研修	ヒヤリハット数と事故報告件数の対策の視点について	全職種	7名	9月19日	生活相談員
感染症研修	感染に関する学び・対策について	全職種	8名	10月24日	看護師
接遇研修	介護の現場で求められる言葉遣いについて	全職種	7名	10月24日	管理者
リスク管理研修	ヒヤリハット数と事故報告件数の対策の視点について	全職種	5名	12月19日	生活相談員
接遇研修	介護の現場で求められる言葉遣いについて	全職種	6名	1月23日	管理者
リスク管理研修	ヒヤリハット数と事故報告件数の対策の視点について	全職種	5名	3月20日	生活相談員

職員間の法人内部研修の実施状況 (令和2年度)

研修名	研修内容	参加職種	参加人数	期間	講師(職・氏名)
マネジメント能力向上研修	チームリーダーの自己管理について	生活相談員	1名	10月6日	株式会社ニッソーネット 教務主任 青野桂子氏
マネジメント能力向上研修	福祉サービスの基本理念・倫理観について	生活相談員	1名	10月12日	株式会社ニッソーネット 教務主任 青野桂子氏
マネジメント能力向上研修	メンバーシップ・リーダーシップについて	生活相談員	1名	10月26日	株式会社ニッソーネット 教務主任 青野桂子氏

職員の外務研修の受講状況 (令和2年度)

研 修 名	研 修 内 容	参 加 職 種	参 加 人 員	日 付	期 間	場 所	研 修 結 果 の 報 告 方 法
社会福祉施設等信任職員研修	介護従事者の専門性・心構え・マナー・接遇について	介護職員	2名	8月3日	1日間	総合福祉会館	出張復命書
認知症の理解とケアの実践	認知症の理解、ケアの実践方法、アセスメントに基づいた支援の方法の検討について	介護職員	2名	10月16日	1日間	総合福祉会館	出張復命書
姫路市老人福祉施設運営 令和2年度施設長及び職員研修会	ウイズコロナ時代のコミュニケーションについて	管理者	1名	11月9日	1日間	大津みやび野ホーム	出張復命書

避難訓練の実施状況 (令和2年度)

実施日	訓練種目	訓練内容
10月19日	みやび野合同避難訓練	日中、火災発生時における通報方法と避難誘導の経路確認。
2月20日	防災対策	消火器の保管箇所の確認、使用の仕方について

苦情対応

発生日	苦情内容	解決方法
令和3年 1月8日	<p>「休止から再開時の連絡の不備」</p> <p>併設事業所の新型コロナウイルス対応から事業所を一時休止し、再開していたところ、再開時の説明不足から「検査はどうなるのか、感染していないのか」との申し出がある。</p>	<p>①生活相談員が家族に連絡し、連絡の不備について、陳謝する。</p> <p>②今後、誤解を招かないように内容は建設的に気をつけて、説明していくことを伝えると理解が得られた。</p>

事故対応

発生日	事故内容	事故対策
令和2年 4月4日	<p>「トイレでの転倒」</p> <p>便座に座られた際に「あっち行って」と言われたため、離れたところ、左側にある小便器に左頭部を打った後、床に転倒しているところを発見する。</p> <p>左頭部から出血していたため、病院を受診し、傷口を縫合する。</p>	<p>①利用者の意思は尊重するとともに下肢機能の低下や転倒の危険性など現状を説明し、理解を得つつ、排泄行為を見守る。</p> <p>②職員同士が連携して、普段から状態把握に努め、変化があった場合など互いに話し合うことで情報共有を行う。</p>
令和2年 11月16日	<p>「公用車の接触事故」</p> <p>利用者を乗せた後、後退操作を行った時に、後方にワゴン車があり、避けようとして、ハンドル操作を行ったところ、左側にあったアルミのポールに左前バンパーがあたり、傷ついた。</p>	<p>①心に余裕を持った運転に努める。</p> <p>②発車前に近くに駐車してある車や設置してあるポールとの位置関係を把握する。</p> <p>③車幅間隔を身につけ、道幅が狭い住宅地では、ミラーなどで道路の状況を確認しつつ、慎重に操作する。</p> <p>④接触しそうな場合は、後退せず、前進操作を行う。</p>
令和3年 2月11日	<p>「公用車の接触事故」</p> <p>駐車場に公用車に戻した時に確認不足から左後方のブレーキランプがフェンスにあたり、傷ついた。</p>	<p>①心に余裕を持った運転に努める。</p> <p>②駐車してある他の公用車やフェンスとの位置関係を把握する。</p> <p>③車幅間隔を身につけ、ミラーなどで状況を確認しつつ、慎重に操作する。</p> <p>④接触しそうな場合は、後退せず、前進操作を行う。</p>